



安全衛生

労働災害撲滅に向けての取り組み

「安全は全てに優先する」の理念のもと、社員が安心して働くことのできる、総合的な安全衛生活動に取り組んでいます。



GLOBAL MESSAGE



Sumitomo Electric Wiring Systems - (Europe) Ltd. (SEWS-E 本社) [イギリス]

コーポレート安全・衛生・環境・研修・マネージャー

デーブ マーチン

労働災害撲滅に向けての取り組み

「安全は全てに優先する」、これが当社のビジネスの原則です。当社は、社員の安全衛生、福祉の確保が組織に不可欠だと考え、傷害や病気の防止、安全で清潔な労働環境の維持に取り組んでいます。私はヨーロッパ、モロッコ、エジプトで安全衛生や研修を担当しています。勤続10年の中で、ゼロ災害実現のための社員の努力、とりわけHSE(安全衛生・健康・環境)コーディネーターの仕事ぶりを誇りに思っています。

安全は全員の責任です。当社は「危険ゼロ化」実現のため社員教育を実施し、最善事例を共有しています。文化の違いによる壁もありますが、常に社員の「安全第一」に努めなければなりません。

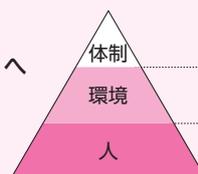
安全対策には時間や工数がかかりますが、安全確認にこそ時間をかける必要があります。就業時間内でたった1分の安全確認を怠ってしまったことで、人生そのものを失ってしまうことも起こりえます。私たちは仕事も人生も存分に楽しめるよう、全従業員が安心安全に働ける職場づくりをめざしていきます。

理念と方針

住友電装グループは、「安全は全てに優先する」を事業の基本に、人間尊重の精神のもと、一切の労働災害を許さない厳しい姿勢で、働く人の安全と健康の確保に向けて行動します。全社安全活動方針を下記のように定め、ゼロ災害をめざして取り組んでいます。

▶ 全社安全活動方針

22V：安全文化の醸成 → 危険「ゼロ」、災害「ゼロ」へ



安全管理体制

標準化と監査(遵守)の仕組みづくり

安全環境

5Sと建屋・設備・作業の安全環境づくり

不安全行動防止(教育・訓練)

安全知識と安全意識の向上

▶ グローバルな啓発活動の展開

当社における災害の要因は、運搬作業、保全作業、清掃といった付帯作業や歩行時の転倒など人に起因するものが多くを占めています。特に近年増加傾向にある歩行中の転倒災害および不安全行動による災害への対策として、2014年からグループ全社員を対象とした「STOPアクシデントキャンペーン」を実施、2016年からは「STOP-USB[※]」活動を実施しました。これらのキャンペーンでは、安全な歩き方を周知し、不安全行動を撲滅するために「STOP」スローガンを掲げて安全啓発活動を進め、転倒災害の撲滅をめざすものです。2017年度は保全作業の遵守事項などを掲載した「保全作業安全ハンドブック」を制作して、全ての保全作業員に配布し、安全意識の醸成を図っています。さらに、保全作業時に「電源を切る・保護具を着ける・手順を守る」ことを徹底する「スイッチ・パワーOFF」活動をグローバルに展開し、9カ国語、延べ4万枚のステッカーを配付しました。2018年度は現場の作業員同士が不安全な環境や行動を指摘しあえる「気づき巡視」の取り組みを順次、国内外に広げていきます。

※USB：Unsafe Behaviorの略。不安全行動

▶ 「STOP」スローガン

- S** Do not take a short cut and watch your step
・近道せず足元に注意する
- T** Do not text or talk on the phone while walking
・歩行中は電話やテキスト(メール)をしない
- O** Hold on to the handrails when using stairs
・階段使用時は手すりを持つ
- P** Do not put your hands in your pocket while walking
・歩行中は手をポケットに入れない



さまざまな言語に訳された保全作業安全ハンドブック



▶ グローバル労働災害統計

2005年から集計しているグローバル労働災害統計は、各国で異なる判断基準を統一し、傷害レベルの尺度を定めて比較検討し、分析しています。

2017年度は国内外合わせて、傷害レベルⅡ 11件、傷害レベルⅢ 4件でした。今後も安全衛生管理の強化に向けて、発生事象ごとに要因分析を行い、設備のプログラムを変更するなど、再発防止のための取り組みを行っていきます。

▶ フォークリフトの安全対策強化

当社現場ではフォークリフトによる運搬作業が多く、重大災害につながる可能性が高いことから、2014年度よりフォークリフトに関連する災害の撲滅に向けて安全対策の強化に精力的に取り組んできました。具体的には災害防止のための安全グローバル標準の制定、リフトと作業者の作業場所を分ける（空間的分離）、リフトと作業者の稼働時間を分け同時作業させない（時間分離）などの抜本的な施策を実行しました。加えて、歩行者接近検知装置や警告ライトの導入を行うなど、さらなる施策を進めています。

この結果、フォークリフト作業に起因する事故は、2015年度以降は発生しておらず、対策の効果が表れています。

▶ 設備認証

2012年に生産設備に対する安全認証の仕組みを導入し、設備のリスクアセスメントと作業環境での安全立合の実施を義務づけています。以前から現存する設備や現地調達設備の多くは、同安全基準の運用前に導入されているため、2016年度から対象となる生産設備18,778台が現在の安全基準に則しているか、確認作業を進めています。

重大災害に結びつく可能性のある刃物を有する設備と回転部や圧着機構を有する設備1,610台を優先的に確認し、安全確認が完了した設備には、「認証ステッカー」を貼り付けています。

2017年度末の安全認証進捗率は94.5%でした。今後も四半期ごとに確認とフォローを実施していきます。

▶ 健康への取組

住友電装グループは、社員一人ひとりの健康は活気ある企業の源であるとの考えのもと、「住友電装グループ 健康への取組」を宣言しました。

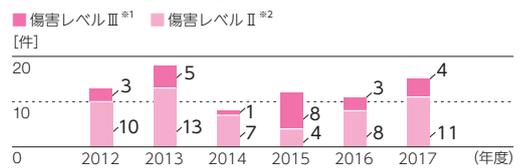
2017年度は受動喫煙対策として、屋内全面禁煙に向けた屋外喫煙所設置工事を実施しました。今後も心身両面にわたる健康保持増進のためのサポートをし、「健康経営」*の観点からも効果的な労働の寄与に向けて行動してまいります。

*「健康経営」は特定非営利活動法人健康経営研究会の登録商標です。

● 健康づくりチャレンジ

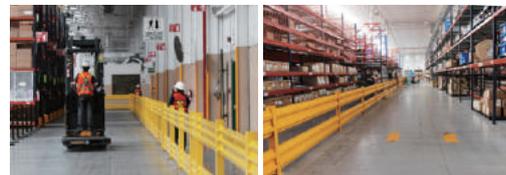
近年、生活習慣病やメンタルヘルスの不調といった健康に関する社会的な課題が深刻化し、健康増進の重要性が高まっています。これまで以上に従業員一人ひとりに健康を意識してもらおうと、2017年12月から3カ月間、住友電装グループの従業員約1,300名が各人で健康づくりに関する目標設定を行い、運動や食事、禁煙や脳トレなど、さまざまなチャレンジを行いました。これからも社員の心身の健康増進をサポートし、活気溢れる企業グループをめざしてまいります。

▶ グローバル労働災害件数の推移



※1 休業災害相当（機能的部分的・一時的低下を伴い、継続的治療行為を必要とするもの）

※2 不働災害相当（一時的な治療行為を必要とするもの）



リフト作業場と作業者の分離



認証ステッカー

▶ 健康への取組 3つの重点取組(2017年度)

- 1 高リスクアプローチ**
 - 健康リスク保有者に対する受診勧奨とトレースの徹底
 - 高ストレス職場の環境改善スキルアップセミナー
- 2 集団アプローチ**
 - 健康知識付与のための各種イベントの企画と推進（メンタル対策）コミュニケーションや気分転換の施策（フィジカル対策）運動と食生活の改善
- 3 体制整備**
 - 全社健康管理規程の制定
 - 各種衛生データの分析強化、指標化
 - 各地区、国内各社での衛生活動の共有化

Voice

健康づくりチャレンジに参加して

住友電装(SWS)
品質管理部
GS推進第1グループ
成田 和俊



人間ドックで糖代謝異常が確認され、食事運動治療を継続している際にこのイベントがあったため、すぐに参加を決めました。

以前から①体重確認（朝・夜）、②通勤時の歩くコースを3パターン確保（20分・30分・45分）、③昼食時に自家栽培野菜を摂取する、④お昼休みに階段の上り下りをするといったことに取り組んでいました。

定年後に同じ運動量を確保できるか不安もありますが、取り組みを継続する予定です。自分なりの目標を決めた定期的な健康づくりが重要です。継続は力なり。